

報告事項

「教育公務員特例法」の一部改正に伴う「やまなし教員等育成指標」の策定を受け、山梨県総合教育センターでは、平成29年度に研修体系を整え、それ以降次のような研修内容の改訂を行ってきた。

1 カリキュラム内容の変更

- (1) 「やまなし教員等育成指標」の項目に基づき研修を整理したこと。
- (2) 対象となるキャリアステージを明示して研修内容を焦点化したこと。

2 実施形態の改善

- (1) 必修研修を減らし、希望研修を充実させたこと。
- (2) 半日単位の研修を増やしたこと。
- (3) やまなしeラーニング (YeL) コンテンツを充実させたこと。

3 講義内容の充実

- (1) 全国レベルの講師を多数招聘したこと。
- (2) 新学習指導要領実施を踏まえた内容としたこと。

議事：(1) 令和元年度の研修について

1 令和元年度の研修

(1) 平成30年度の成果と課題

ア 成果

- (ア) 研修内容を焦点化するとともに、「やまなし教員等育成指標」が周知徹底されたため、定員充足率（定員に対する受講者数の割合）が向上したこと。 75.1%(H29) → 84.8%(H30)
- (イ) 延べ受講者数が増加したこと。 12,452人(H29) → 13,285人(H30)
- (ウ) 受講者の満足度が高かったこと（受講者アンケートの結果から）。
 - ・「役に立つ内容だった」 91.3%(H29) → 92.0%(H30)
 - ・「様々な視点で学校運営が行われていることに気づかされ、今後の自分の働き方の意識に大きな影響を与えてくれた」（リーダー研修会受講者）
 - ・「学校を空けるのが半日なので研修に出やすかった」
 - ・「講師の先生が直接その災害対策に関わっていたため、現場にいるような緊迫感があった」（防災教育研修会受講者）
 - ・「資料及び講師の説明が充実していてとても良い研修だった」（リーダー研修会受講者）
- (エ) 活用状況アンケートの「活用」回答割合が向上したこと。 92.6%(H29) → 93.6%(H30)

イ 課題

- (ア) 「やまなし教員等育成指標」の項目に基づき研修を更に整理していくとともに、キャリアステージに応じた研修体系に即した研修の完成を目指すこと。
 - ・「教職としての素養」に関する研修を設ける必要がある。
 - ・新たに始めた「リーダー研修」の検証を行い、より良いものとする。
- (イ) 教員の多忙化改善とのバランスを取りながら、研修計画を立案すること。
 - ・「初任者研修」については、日数を2日間減じたが、更に弾力的運用を検討する。
 - ・初年度となった「中堅教諭等資質向上研修」については、更なる充実を図る。
- (ウ) 研修内容を充実させるとともに、周知を図り、受講者の更なる増加を目指すこと。
- (エ) 「研修の総合教育センターへの一元化」については、今後も検討を進めていく必要があること。

(2) 令和元年度の研修会実施状況 (7月16日現在)

| 項目 | 研修会数 | 申込数(実人数) | 平均定員充足率(%) |
|------------------|---------|----------|---------------|
| 素養 | 3 | 303 | 45.1 |
| キャリアステージ | 13 | 2,684 | (必修研修のため定員通り) |
| 専門性 | 学習 | 65 | 1,647 |
| | 生徒指導 | 17 | 1,125 |
| | キャリア | 1 | 39 |
| | 特別支援 | 9 | 650 |
| | 学校運営 | 8 | 645 |
| | 新たな教育課題 | 19 | 459 |
| | 養護教諭 | 4 | 120 |
| その他(外部共催・免許更新講習) | 14 | 275 | 35.0 |
| 合計 | 153 | 7,947 ※ | |

※述べ人数の場合=13,700人

(3) 令和元年度総合教育センター研修の変更点 (「資料1」参照)

ア 素養に関する研修の充実：「人権教育研修」宝塚大学 日高庸晴教授
5月28日(火)「学校での配慮が必要なLGBTsの子どもたち」

イ リーダー研修の充実：日本大学 広田照幸教授
7月25日(木)「児童生徒の人格の完成を目指す教育とは」
8月21日(水)「使命感・責任感を持つ教員の在り方について考える」

ウ 言語活動に関する研修会の充実
7月26日(金)「言葉による見方・考え方を働かせた授業改善研修会」中学校
7月31日(水)「言葉による見方・考え方を働かせた授業改善研修会」小学校

エ 教員の熟練度に応じた段階別研修会の設定
7月30日(火)「ブリーフセラピー」基礎・応用
8月6日(火)「英語指導の理論と実践」初級・中級

2 「フォーラム 山梨県で学校の先生になろう！」(「資料2」参照)

(1) 「フォーラム」運営研修会

ア 目的 「フォーラム」の企画・運営を通して、ミドルリーダーとして学校運営に必要な資質・能力を身に付ける

イ 対象 (1) ステージ ステージ2の教員を中心とする
(2) 校種 小中高特

ウ 日程 第1回 9月10日(火) 13:40～16:40
第2回 10月13日(日)「フォーラム当日」9:00～16:30

エ 会場 第1回 総合教育センター本館2階 第1研修室
第2回 山梨県立図書館2階 多目的ホール

オ 定員 20名(うち6名はパネリストを兼ねる)

(2) 第1回研修会内容

ア 「パネルディスカッション」のテーマ決定

(ア)「メインテーマ『山梨で先生する』っていいね！」(案)

(山梨県で学校の先生として過ごす人生のメリット・やりがい語る)

(イ) サブテーマ(6つの視点からパネリストが発表し、フロアを交えて意見交換する)

・「地元出身」・「Uターン」・「Iターン」それぞれの立場から

・「教職としての専門性」

・「ワークライフバランス①(仕事も家族も大切に)」

・「ワークライフバランス②(仕事もプライベートも大切に)」

イ 当日係分担当決定(パネリスト6名を含む)

ウ 係別準備内容協議

(ア)パネリスト:「自己紹介映像」(1分以内の写真スライドまたはビデオ,発表内容等

(イ)進行係 (ウ)会場設営計画 (エ)外部部対応 など

エ 第2回研修会(当日)までの準備日程確認

(3)「研修会」参加者募集の経緯

ア 研修システム上の募集期間 4月11日～6月19日

イ 参加者内訳:

ウ ・小中学校教員 ⇒10名【4教育事務所(中北・峡東・峡南・富士東部)+甲府市教委より
小中学校各1名推薦=計10名】

・高校教員 ⇒6名【普通科3名,専門科3名】

・特別支援学校教員⇒4名

(4)「フォーラム」参加者募集の経緯

ア 一次案内 3月に県内各高校および大学に一次案内を配布

イ 二次案内 6月初旬に総合教育センターHPにて公開

ウ 大学生募集 6月中旬～7月初旬に県内各大学を訪問し,学生募集と取りまとめを依頼した。
・山梨大学 ・山梨県立大学 ・都留文科大学 ・山梨学院大学

エ 高校生募集 7・8月校長会で総合教育センター所長より募集を依頼。

オ 7月22日現在の状況 大学生40名(県内37名,県外3名)

(5)第2回 10月13日(日)「フォーラム 山梨県で学校の先生になろう」

1 会場集合 9:00 県立図書館集合

2 会場準備 9:10～12:00

3 受付準備 13:00

4 受付 13:30～14:00

5 フォーラム 14:00～16:00 (開会あいさつ14:00～14:10)

(1) Part 1 「山梨県で先生になろう」(65分) 14:10～15:15

ア パネリスト自己紹介(映像) 14:10～14:20

イ パネルディスカッション

(ア) パネリスト意見発表 14:20～14:40

(イ) フロアから質問・意見 14:40～14:50

(ウ) フロアとパネリスト意見交換 14:50～15:15

(2) Part 2 「山梨県で先生になるには」(25分) 15:30～15:55

ア 教育委員会人事担当より情報提供 15:30～15:45

イ 質疑応答(質問ブース) 15:45～15:55

3 「研修履歴票」について

(1) 目的

- ア 教員個人は自己の研修履歴をポートフォリオとして管理することにより、研修への意欲を高めることができる。
- イ 管理職は所属職員の研修履歴等を把握・俯瞰し、育成のために適切な指導助言をすることができる。

(2) 利用法

- ア 総合教育センターHP より研修履歴票（エクセルファイル）を個々にダウンロードする。
- イ 研修情報システムから自身の研修履歴をダウンロードし、エクセルファイルに転記する。
- ウ 研修受講後に、ポートフォリオ部分に記述する。
- エ 各校管理職には、研修履歴票の活用について校長会等で依頼する。

(3) 利点

- ア 教員としての生涯を1枚に収めることにより、生涯に渡って学び続ける意欲を育成できる。
- イ 研修会ごとに内容（感じたこと、最も重要だと思ったこと等）を振り返ることができる。
- ウ 生涯を通して共通の問（「教えるとはどういうことか」等）への答え等を記入し、日常的に振り返ることにより、自らの成長を確認できる。

【参考】「教職員支援機構 全国研修担当者セミナー」参加報告

I 日程 平成31年4月25日（木）～4月26日（金）

II 研修会の目的

各都道府県の教育委員会が策定した指標等について、全国の育成指標のメタ分析結果を報告するとともに、各教育委員会と教職大学院が連携した教員研修高度化の取り組み事例を共有し、今後の連携にむけた方策を協議する。

III 受講対象者

都道府県、指定都市、中核市の教員研修派遣担当者、教育委員会、教育(研修)センター等の教員研修担当指導主事等及び教職大学院関係者

IV 参加者 研修指導課長 池谷佐知子、研修指導主任 野崎哲司

V 会場 教職員支援機構つくば中央研修センター

VI 概要

本年度は、全ての都道府県で作成した「教員等育成指標」について、教職員支援機構による全国分析結果を参考に、各教育委員会における「育成指標」の実施状況と活用方法を検討した。

また、実践事例発表及び研究協議・情報交換を通し、現場での「育成指標」活用促進の方法を協議した。山梨県の「やまなし教員等育成指標」については、昨年と同セミナーで全国的に優れていることが認められたが、特に今年度から利用開始した「研修履歴閲覧」「研修履歴票(ポートフォリオ)」についても、全国に先駆けた好事例であると評価された。

具体的には

- (1) 「育成指標」「研修履歴票」の一覧性が高く、現状とステージごとの目標を確認しやすい
- (2) 「研修履歴」の閲覧が所属長・教員個人ともに容易にでき活用しやすい
- (3) 「研修履歴票」の記録と「ポートフォリオ」形式により研修成果の振り返りを行いやすい

VII 研修成果の活用について

研究協議で得られた本県の「育成指標」及び「研修履歴票」の利点を各校に周知し、所属長及び教員個人が資質能力向上に広く活用していただけるよう、次のとおり周知する。

- (1) 4月研修会申込事務説明会で研修担当を中心に活用方法と利点を説明
- (2) 新校長・新教頭研修会、小中学校校長会にて活用を奨励
- (3) 郡市合同指導主事会において、各教育事務所指導主事に活用方法を説明
- (4) 各種研修会において、運営担当者から活用を奨励

VIII 今後の見通し

実際の活用事例を先生方に紹介するなどにより、「研修履歴票」を活用した資質能力向上の支援を検討する。

4 令和元年度「法定研修」実施状況

(1) 「初任者研修」について

ア 平成30年度「初任者研修」実施状況

(ア) 対象者数 ※高校は、市立（甲陵高校）3名を含む。

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 特別支援 | 養護教諭 | 栄養教諭 | 合計 |
|------|-----|-----|----|------|------|------|-----|
| 対象者数 | 126 | 62 | 20 | 24 | 15 | 5 | 252 |
| 除外者数 | 10 | 3 | 1 | 0 | 0 | 0 | 14 |

(イ) 実施内容

初任者研修は、文部科学省が示している7分野（基礎的素養、学級経営、教科指導、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、生徒指導・進路指導）と「やまなし教員等育成指標」で求める資質能力に基づいて研修を実施した。

平成30年度初任者研修は、校内研修年間300時間、校外研修年間23日で構成されていた。なお新採用研修として実施する養護教諭及び栄養教諭は、校外研修15日で構成されていた。

(ウ) 研修の成果

【校内研修】

- ・初任者は研修への意識が高く、指導教員の適切な指導助言により力量の向上がみられた。
- ・指導教員を中心に全校体制による研修を行うことで、初任者研修のみならず校内研修全体が活性化し、学校全体にとっても有意義な実践的研修となっていた。
- ・初任者研修の総合教育センターへの移管に伴い、本庁との連携を図りながら、今後、研修を円滑に実施していくための基盤となる体制作りを進めることができた。

【校外研修】

- ・初任者に研修を通じて組織としての学校の一員であることの自覚がみられるようになった。
- ・様々な校種の初任者が一堂に会して研修を行うことで、活発な情報交換が行われ、異校種間連携を意識した指導の在り方について考える機会となった。
- ・学級経営、授業でのICT活用、教科指導、危機管理、防災教育等、研修で学んだことは「すぐ役立った、活用できた」と振り返る初任者が8割を超えた。その他の研修においても同様の回答が6～7割程度あり、「実践的指導力を養い、幅広い知見を得る」という初任者研修の目的を果たした。
- ・特別支援学校参観研修、宿泊研修、企業等体験研修、福祉とボランティア研修、博学連携研修を通じて「生きるということ」「働くということ」「児童生徒の視点」等の内容を学び、教育の原点を考えるとともに、社会人としての生き方・在り方を顧みる機会となった。

(エ) 校外研修におけるアンケート結果

初任者の受講アンケート結果は、以下のとおりである。

| | 大いに満足 | 満足 | やや不満 | 不満 |
|-------------|-------|------|------|----|
| センターでの研修の平均 | 92.8% | 7.0% | 0.2% | 0% |

(オ) 研修の課題

【校内研修】

- ・小・中学校のほとんどの初任者は学級担任（平成30年度の初任者188名中167名が学級担任であり、様々な教育課題を抱えている。初任者の勤務時間が長くなりがちで健康管理も心配される。研修の内容や質を保つため勤務時間外に指導を行わざるを得ない状況もある。

- ・初任者研修の総合教育センターへの移管に伴い、書類の提出、企業等体験研修の実施等について、市教委や教育事務所から何点か要望があったことに対応していく必要がある。

【校外研修】

- ・初任者研修は、全校種揃って開催された平成4年から26年が過ぎ、教員の多忙化や育成指標との兼ね合い等、社会情勢が変わってきており、全体的な見直しが必要である。
- ・教員採用試験の受検年齢が49歳以下に引き上げられたことや、受講者への合理的配慮等について検討しておく必要がある。

イ 令和元年度「初任者研修」実施状況（「資料3」参照）

（ア）対象者数

※高校は、市立（甲陵高校）2名を含む。

| | 小学校 | 中学校 | 高校 | 特別支援 | 養護教諭 | 栄養教諭 | 合計 |
|------|-----|-----|-----|------|------|------|-----|
| 採用者数 | 116 | 75 | 15 | 25 | 9 | 7 | 247 |
| 対象者数 | 99 | 66 | 17※ | 21 | 9 | 7 | 219 |

（イ）実施計画

「やまなし教員等育成指標」に基づいて、「資料3」のとおり計画を立てた。

（ウ）令和元年度初任者の校外研修計画

①校外研修日数の変化

| 年度 | ～2017 | 2018 | 2019 |
|----------|-------|------|------|
| 校外研修実施日数 | 25 | 23 | 21 |

②宿泊研修：平成30年度から、1泊2日、前団・後団で実施。

| | 日程 | 参加人数 |
|-----|-----------------|------|
| 前 団 | 7月25日(木)～26日(金) | 110 |
| 後 団 | 7月29日(月)～30日(火) | 109 |

ウ 令和元年度の見通し

初任者研修の総合教育センターへの移管にあわせ、教育事務所や各所属校から要望の多い事務手続きの簡素化・合理化に取り組んでいる。特に、校内研修の指導計画作成について、所属校等の負担軽減の要望が多く寄せられているので、合理的な指導計画作成のための方策を課内で検討中である。高校に所属する初任者の校内研修の一つである授業研修（初任者の授業、先輩授業）と山梨大学教育学部との連携事業（「初任者研修等における大学教員の派遣）については、両者を一体的に進め、授業研修の更なる充実を目指している。

校外研修については、6月末までに6回実施した。集計作業が完了した初任者のアンケートによると、「満足した」という回答は平均99.3%であり、概ね良好な結果が得られている。一方、研修日程に過密な部分があり、講師から受講生の理解を深めるためにもう少し時間が欲しい旨の要望が出ている。来年度に見込まれる初任者研修受講者の大幅増を見据え、研修体制等の見直しが求められている。

(2) 「中堅教諭等資質向上研修」について

ア 平成 30 年度「中堅教諭等資質向上研修」実施状況

(ア) 受講者数・修了者数

平成 30 年度から、対象となる者が「山梨県公立学校教諭としての採用日からの年数が 10 年に達した者」に変更となった。従来は「在職期間が 10 年に達した者」だったため、受講を延期していた教員が平成 30 年度に一斉に対象になり、対象者が一時的に増加することとなった。そのうち、1 講座以上を受講した者とすべての講座を受講して修了した者の人数は、下の表のとおりである。必修 6-1 の選択講座が中止となったため、年度当初の見込みよりも修了者数が少なかった。

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 特別支援 | 養護教諭 | 栄養教諭 | 合計 |
|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|
| 受講者数 | 79 | 61 | 49 | 37 | 14 | 0 | 240 |
| 修了者数 | 21 | 18 | 15 | 10 | 6 | 0 | 70 |

(イ) 実施内容

平成 30 年度中堅教諭等資質向上研修は、教諭が「総合教育センター等における必修研修」(必修 1-1~8-1)と「所属校における研修」(20 回程度)、養護教諭が「総合教育センター等における研修」(必修 1-1~8-1)と「所属校における研修」(5 回程度)で構成されている。

(ウ) 実施期間

「総合教育センター等における必修研修」は、対象となった年度から 5 年以内に受講する。「所属校における研修」は、1 年以内に行う。

(エ) 総合教育センター等における研修の成果

- ・ 道徳教育や特別支援教育、学校の危機管理などの講座では、教職としての専門性に関わる実践的な資質能力の向上が図れた。
- ・ 他校での授業参観・研究会参加など、学習指導に関する研修では、相互に学びあい、知識・技能を十分に身につけることができた。特に甲府市教育委員会及び各教育事務所実施の研修会は実践的な内容で、受講者に大変好評であった。
- ・ 山梨大学との連携により、各校種・教科ごとと少人数での講座が実施でき好評であった。教科指導法について大学での知見を取り入れることができ、教員養成と育成との一体化が図れた。
- ・ 教育監、総合教育センター所長の講話から、受講者は中堅教諭としての立場を自覚することができた。
- ・ 教員免許状更新講習の受講により 299 人(64.7%)が代替申請を行った。必修研修の免除・代替の制度を利用することで、受講者の負担軽減につながっている。

(オ) 受講者アンケート結果

| | 満足した | どちらでもない | 満足しない |
|--------|-------|---------|-------|
| 必修研修平均 | 90.6% | 9.4% | 0.0% |

(カ) 研修の課題

- ・ 研修日程によっては、部活動指導に関わる教員などが参加しにくいことがある。
- ・ 必修研修の免除・代替申請の手続きが複雑で、受講者にはわかりにくい場面があった。

(キ) 所属校における研修の成果

所属校の校長は、対象者の事前評価を行い、校長等の指導・監督のもと 20 回程度の所属校における研修を実施することとした。県教育委員会では、「学習指導等に関するもの」「生徒指導等に関するもの」「学級経営等に関するもの」「特別活動等に関するもの」などの研修分野について、研修題目・事例等を例示した。1 年間の研修実施後、事後評価を行い、県教育委員会に報告するよう求めた。各校の課題を踏まえ、実践を通じて授業の改善や教材の開発に取り組んだこと、児童生徒の実態に応じて指導法・体制づくり・連携の在り方について管理職や同僚と協議を重ねたなど、様々な成果が見られた。

イ 令和元年度「中堅教諭等資質向上研修」実施状況（「資料4」参照）

(ア) 対象者数・受講者数

| | 小学校 | 中学校 | 高等学校 | 特別支援 | 養護教諭 | 栄養教諭 | 合計 |
|------|-----|-----|------|------|------|------|-----|
| 対象者数 | 130 | 98 | 71 | 54 | 27 | 0 | 380 |
| 受講者数 | 102 | 78 | 61 | 37 | 17 | 0 | 295 |

(イ) 実施計画

「やまなし教員等育成指標」に基づいて、「資料4」のとおり計画を立てた。

(ウ) 研修内容の検討

- ・必修 1-1 の実施内容及び運営について、山梨大学との連携を図りながら更に検討を進める。
- ・必修 6-1, 必修 7-1, 必修 8-1 の選択講座について、受講者の便宜も考え合わせながら講座数及び日程の調整を行う。

(エ) 研修日程の変更

- ・課業期間中に実施する研修会のうち、必修 4-1 と必修 4-2 の実施時期を隔年で交替する。

(オ) 運営の改善

- ・平成 30 年 11 月の研修情報システムの改修によって、必修研修の免除・代替の状況を含めた個人受講履歴について受講者及び所属長が閲覧できるようになった。

ウ 令和元年度の見通し

新規の受講者のうち、7～8割程度は一年間での修了を目指して研修計画を立てている。一部の未受講講座を終えて修了する予定の者を合わせると、年度末には100名以上がすべての講座を受講して修了する予定である。

一方、学校行事や部活動などの予定や子育てなどの家庭環境によって、複数年での実施を計画している受講者も多く、弾力的な運用という法改正の趣旨に沿った受講状況である。

5 その他：「山梨における教員育成推進事業」における山梨大学との連携

(1) 目的

「やまなし教員等育成指標」に基づいた初任者研修体系及び研修計画において、山梨大学教育学部と山梨県教育委員会が連携することにより、教員の資質能力の向上と、より効果的な研修計画の策定をめざす。

(2) 事業内容

ア 初任者研修等における大学教員の派遣

高校の初任者研修授業研修会に、山梨大学教員が総合教育センター指導主事に帯同して訪問し助言を行うことにより、研修内容を充実させる。初任者研修担当者が、総合教育センター指導主事と該当高校の学校長と連絡をとりながら実施する。

「初任者研修等における大学教員の派遣」実施計画

| 訪問日 | 学校名 | 授業時間 | 教科 | 山梨大学教員名 | 初任者数 |
|--------|--------|-------------|------|-----------|------|
| 9月13日 | 上野原高校 | 調整中 | 化学 | 森長久豊 准教授 | 3人 |
| 9月20日 | 日川高校 | 13:05-13:50 | 数学Ⅲ | 中村宗敬 准教授 | 2人 |
| 9月27日 | 塩山高校 | 13:30-14:20 | 世界史B | 皆川卓 教授 | 3人 |
| 10月11日 | 身延高校 | 調整中 | 国語総合 | 長谷川千秋 教授 | 1人 |
| 10月11日 | 甲府城西高校 | 10:45-11:35 | 現代社会 | 宇多賢治郎 准教授 | 3人 |

イ「子どもと教師の成長を結ぶ教育評価研修会～OPP シートによる学習・指導と評価の一体化」
山梨大学と総合教育センターの共催研修会(911番)として次の4地区において実施する。

| 研修日 | 実施会場 | 講師 | 参加者数 |
|----------|------------------------|-----------|------|
| 6月13日(木) | 峡東地区:山梨市役所 501 会議室 | 堀哲夫, 辻本昭彦 | 33人 |
| 6月25日(火) | 峡南地区:身延地区公民館下山分館 | 堀哲夫, 中島雅子 | 38人 |
| 8月8日(木) | 富士・東部地区:都留市まちづくり交流センター | 堀哲夫, 辻本昭彦 | 30人 |
| 8月9日(金) | 中北地区:北巨摩合同庁舎 101 会議室 | 堀哲夫, 中島雅子 | 60人 |

(時間は全日とも 14:00～16:50)

※8月8日, 8月9日の参加者数は7月19日現在

(資料1)

2019年度 リーダ研修会 実施計画一覧

| 研修会番号 | 日程 | | 日数 | 定員 | 講座名 | 内容 | 講師 | 備考 |
|-------|-----------------|----------|-------|-----|------------------------------|--|---|--|
| 4001 | 7月25日 | 午後 | 0.5 | 300 | 教職としての素養を学ぶ研修会① | 教育の本質について理解を深め、児童生徒の人格の完成を目指す教育の在り方について考える。 | 日本大学文理学部 教授 広田 照幸 | |
| 4002 | 8月21日 | 午後 | 0.5 | 300 | 教職としての素養を学ぶ研修会② | 教育の本質について理解を深め、使命感・責任感を持った教員の在り方について考える。 | 日本大学文理学部 教授 広田 照幸 | |
| 4003 | 7月25日 | 午前 | 0.5 | 100 | 学校運営—教育課程を学ぶ研修会 | 国や県の教育施策について学び、児童生徒に世界に通じ社会を生き抜く力を育成できる教育の在り方について考える。 | 総合教育センター 指導主事 | |
| 4004 | 8月21日 | 午前 | 0.5 | 100 | 学校運営—学校安全を学ぶ研修会 | 学校安全に関する国や県の施策や、安全・危機管理について学び、児童生徒に安全に関する資質能力を身につけさせるとともに、学校運営に貢献できる教員の在り方について考える。 | 総合教育センター 指導主事 | |
| 4005 | 4月23日 | 午後 | 0.5 | 60 | 教務の仕事について学ぶ研修会 | 教務主任の職務・役割を明らかにし、教育課程の編成・教育計画及び学校運営の在り方について理解を深める。 | 総合教育センター 指導主事 教務主任経験者 | 研修番号4008と同一研修 |
| 4006 | 5月30日 7月30日 | 午後 午前 | 0.5×2 | 80 | 生徒指導の仕事について学ぶ研修会 | 生徒指導について困難を抱える児童生徒に対する校内体制の在り方について学び、指導力の向上を図る。 | 日本学校教育相談学会 内藤 雅人 総合教育センター 指導主事 | 研修番号4009と同一研修 |
| 4007 | 5月28日 7月2日 | 午後 | 0.5×2 | 80 | 校内リーダーと学年運営について学ぶ研修会 | 学年主任・学部主事の役割を手掛かりに校内のリーダーとしての指導力の向上を図る | 総合教育センター 指導主事 | YeL必須 研修番号4010と同一研修 |
| 4008 | 4月23日 | 午後 | 0.5 | 60 | 新教務主任研修会 | 教務主任の職務・役割を明らかにし、教育課程の編成・教育計画及び学校運営の在り方について理解を深める。 | 総合教育センター 指導主事 教務主任経験者 | 新教務主任は必修 他の研修会を1つ選択する |
| 4009 | 5月30日 7月30日 | 午後 午前 | 0.5×2 | 80 | 新生徒指導主事・主任研修会 | 生徒指導について困難を抱える児童生徒に対する校内体制の在り方について学び、指導力の向上を図る。 | 日本学校教育相談学会 内藤 雅人 総合教育センター 指導主事 | 新生徒指導主事・主任は必修 他の研修会を1つ選択する |
| 4010 | 5月28日 7月2日 | 午後 | 0.5×2 | 80 | 新学年主任・新学部主事研修会 (中・高・特別支援) | 学年主任・学部主事の役割を手掛かりに校内のリーダーとしての指導力の向上を図る | 総合教育センター 指導主事 | YeL必須 新学年主任・学部主事は必修 他の研修会を1つ選択する |
| 4011 | 9月10日 10月13日 | 午後 終日 | 1.5 | 20 | フォーラム「山梨県で学校の先生になろう！」運営実習研修会 | フォーラムの運営を通じて、教員としてのキャリアを振り返り、学校運営のリーダーとしての指導力の向上を図る。 | 総合教育センター 指導主事 | |

※1 4008,4009,4010はそれぞれの主任・主事の必修研修です。申込時に4001～4007の研修会から1講座以上追加して申し込んでください。

なお、2018年度に5001～5007を受講された方は、追加の申し込みは必要ありません。

※2 4011を申し込む際には、事前に総合教育センター研修指導課(055-262-5871)にご連絡ください。

主催：山梨県教育委員会

フォーラム

山梨県で学校の先生になろう！

「学校の先生」になりたけれど、何をすればいいの？

できれば山梨で先生になりたいけれど、なれるのかな？

山梨で教員として働くと、どんなメリットがあるの？

こんな思いの大学生、高校生の皆さん、集合！「山梨県の学校の先生」のことがわかります！

日時

令和元年 10月13日(日) 14:00-16:00
(受付13:40~14:00)

会場

山梨県立図書館 2階多目的ホール

内容

【Part 1】

1 メッセージ 「山梨県で学校の先生になろう」

2 パネルディスカッション 《パネリスト》県内小中高特別支援学校の先生方
「テーマ：山梨県で教員として過ごす人生～山梨の未来を創造する」

【Part 2】

3 ミニ講義 「山梨県で学校の先生になるには」

(1) 山梨県の教員採用について (2) 質疑応答等



対象

教育や先生の仕事に興味のある
大学生と県内の高校生等

定員：200名

申込方法

- (1) 大学生：下記申込書に記入し、切取らず教育センターへFAX送信
(2) 高校生：各校の担当の先生に、下記申込書を提出

申込締切

- (1) 大学生：7月31日(水) (2) 高校生：9月13日(金)

【お問合せ】 山梨県総合教育センター <http://www.ypec.ed.jp/htdocs/>
TEL 055-262-5871 (研修指導課)

【参加申込】 山梨県総合教育センター FAX 055-262-5572

10月13日(日)「フォーラム：山梨県で学校の先生になろう！」参加申込書

【大学生】 _____ 大学 _____ 学部 _____ 年 _____

【高校生】 _____ 高校 _____ 年 _____

【氏名】 _____

※大学生のみ【連絡先】(電話番号)(_____ - _____)

(資料3)

2019年度

初任者研修計画一覧

⇒前年度の削除部分

山梨県総合教育センター

| 対象 | 研修番号 | | | | | | 実施日 | 研修会名 | 研修内容 | 会場 | 実施機関 |
|------------|---------------|------|------|------|------|------|----------------|--------------|--|-------------------|--------------|
| | 小 | 中 | 高 | 特 | 養 | 栄 | | | | | |
| 小中高特 養栄 | 1101 | 1201 | 1301 | 1401 | 1501 | 1601 | 4/12(金) | 開講式 | 開講式 講話(教育監) | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 教育公務員の服務 | 教育公務員の服務 研修の概要オリエンテーション | | |
| | | | | | | | | 学校運営への参画 | 初任者としての学校運営への参画 研修申込方法 | | |
| | | | | | | | | 学級経営 | 【小・中・高】学級経営の理論と実践 【特】新任教員の心構え | | |
| | | | | | | | | 養護教諭専門1 | 学校保健活動の推進と養護教諭の役割 | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門1 | 栄養教諭の役割 | | |
| 接遇 | 社会人としての接遇の在り方 | | | | | | | | | | |
| 小中高特 養栄 | 1102 | 1202 | 1301 | 1402 | 1502 | 1602 | 4/26(金) | 学習指導要領 | 学習指導要領と学習評価 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 授業でのICTの活用 | 授業における情報教育機器の効果的な活用の仕方 | | |
| | | | | | | | | 生徒指導 | 生徒指導の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 養護教諭専門2・3 | 養護教諭のための情報処理 健康管理 | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門2・3 | 栄養管理 学級活動における食に関する指導 | | |
| | | | | | | | | 特別支援教育基礎 | 特別支援教育の現状と今後の課題 | | |
| 小中高特 養栄 | 1103 | 1203 | 1303 | 1403 | 1503 | 1603 | 5/17(金) | 特別支援学校参観 | 特別支援学校参観(9校) 研究協議 | 特別支援 学校 | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | | | | |
| 小中高特 養栄 | 1104 | 1204 | 1304 | 1404 | 1504 | 1604 | 5/31(金) | 教科指導法1 | 【小】国・社・算・理の指導法(選択履修) 【中・高】教科別 【特】小・中・高の教科選択 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 養護教諭専門4 | 学級活動における保健指導 | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門4 | 食に関する指導の在り方 | | |
| | | | | | | | | 人権教育 | 人権教育の意義と進め方(いじめ・体罰を含む) | | |
| | | | | | | | | 宿泊研修事前I | 宿泊研修事前研修I | | |
| 小中高特 養栄 | 1105 | 1205 | 1305 | 1405 | 1505 | 1605 | 6/14(金) | 教育公務員の勤務と給与 | 教育公務員の勤務と給与 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | キャリア教育 | キャリア教育の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 特別活動 | 特別活動の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 養護教諭専門5・6 | 食物アレルギー対応 他 食物アレルギー緊急時対応 | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門5・6 | 食物アレルギー対応 他 学校給食の活用 | | |
| | | | | | | | | 宿泊研修事前II | 宿泊研修事前研修II | | |
| 小中高特 養栄 | 1106 | 1206 | 1306 | 1406 | 1506 | 1606 | 6/28(金) | 危機管理～情報～ | 情報に関する危機管理 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 健康教育～保健・安全～ | 学校安全と健康教育の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 運動部活動の在り方 | 運動部活動の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 健康教育～食育～ | 食育の意義と進め方 | | |
| | | | | | | | | 宿泊研修事前III | 宿泊研修事前研修III | | |
| 小中高特 養栄 | 1107 | 1207 | 1307 | 1407 | 1507 | 1607 | 7/25(木) | 宿泊研修1(前団) | 入所のつどい 校外学習等の引率の心構え 野外炊事の実験 情報交換会 ストレスマネジメント | 八ヶ岳 少年 自然の家 | 総合教育 センター |
| | 1108 | 1208 | 1308 | 1408 | 1508 | 1608 | 7/26(金) | 宿泊研修2(前団) | 自然観察活動の実験と指導法 研修のまとめ 退所のつどい | | |
| | 1107 | 1207 | 1307 | 1407 | 1507 | 1607 | 7/29(月) | 宿泊研修1(後団) | 入所のつどい 校外学習等の引率の心構え 野外炊事の実験 情報交換会 ストレスマネジメント | | |
| | 1108 | 1208 | 1308 | 1408 | 1508 | 1608 | 7/30(火) | 宿泊研修2(後団) | 自然観察活動の実験と指導法 研修のまとめ 退所のつどい | | |
| 小中高特 養栄 | 1109 | 1209 | 1309 | 1409 | 1509 | 1609 | 8/8(木) | 防災教育 | 防災教育の意義と進め方 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 学校教育相談 | 教育相談の意義と進め方 | | |
| 小中 養栄 | 1110 | 1210 | | | 1510 | 1610 | 8/19(月) | 道徳教育 | 道徳教育の意義と進め方 道徳授業づくり | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 養護教諭専門8・9 | 健康管理 食物アレルギーについて 保健指導の進め方 | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門8 | 衛生管理 | | |
| 小中高特 養栄 | 1111 | 1211 | 1310 | 1410 | 1511 | 1611 | 夏季休業中 | 教科指導法2 | 【小】 外国語活動研修を全員履修 8月7日(水) 【中・高】各教科別に教科専門研修より選択履修 【特】 研修番号(503)(504)から1つ選択 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 養護教諭専門7 | 研修番号(801)「救急処置研修会」を履修 8月9日(金) | | |
| | | | | | | | | 栄養教諭専門7 | 研修番号(291)「食育研修会」を履修 8月7日(水) | | |
| 小中高特 | 1112 | 1212 | 1311 | 1411 | | | 夏季休業中 | 教科指導法3 | 【小】音楽・図画工作・家庭・体育の指導(教科専門研修より選択履修) 【中・高】各教科別に教科専門研修より選択履修 【特】 研修番号(503)(504)から1つ選択 【教科指導法2で選択した研修以外から1つ選択】 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| 小中高特 養栄 | 1113 | 1213 | 1312 | 1412 | 1512 | 1612 | 10/18(金) | 総合的な学習の時間 | 総合的な学習の時間の意義と進め方 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| 小中高特 | 1114 | 1214 | 1313 | 1413 | | | 11/15(金) | 小中:企業等体験 | 民間企業等体験研修(市教委・各事務所ごと) | 各企業 | 総合教育 センター |
| 小中高特 | 1114 | 1214 | 1313 | 1413 | | | 11/15(金) | 高特:福祉とボランティア | 福祉施設等への訪問体験(6施設) ボランティア活動の意義と進め方 | 各施設 | 総合教育 センター |
| 小中高特 | 1115 | 1215 | 1314 | 1414 | | | 7～11月 (2日間) | 地域と教育 | グローバル化への対応という視点から、文化財・地理・歴史・自然等の地域資源の教材化 | 各地域 | 総合教育 センター |
| 小中高特 養 | 1116 | 1216 | 1315 | 1415 | 1513 | | 1/10(金) | ICTを活用した授業実践 | ICTを活用した授業実践発表と研究協議 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 養護教諭専門10・11 | 保健教育実践発表と研究協議 学校保健活動の評価 | | |
| 小中高特 養栄 | 1117 | 1217 | 1316 | 1416 | 1514 | 1613 | 1/24(金) | 研修の成果と課題 | 初任者研修の成果と課題についての発表と研究協議 | 総合教育 センター | 総合教育 センター |
| | | | | | | | | 地域と教育成果発表 | 「地域と教育」研修の成果物の発表 | | |
| | | | | | | | | 教育監講話 | 講話(教育監) | | |
| | | | | | | | | 閉講式 | 閉講式 | | |

(資料4)

2019年度 中堅教諭等資質向上研修 必修研修計画一覧

山梨県総合教育センター

| 研修会名 | 校種 | 研修会番号 | 受講形態 | 実施期日 | 研修場所 | 研修会名・内容 | 備考 |
|-------|------|---------|-------------------|---|------------------------------------|--|---|
| 必修1-1 | 小 | 3101 | 共通 | 12月26日(木) AMまたはPM | 山梨大学 総合教育センター | 教科指導法研修会 与えられた課題に対して教育実践を行い、結果を持ち寄って指導を受ける | 午前・午後のいずれか0.5日 ※農業・商業・工業と養護教諭は総合教育センターで実施する |
| | 中 | 3201 | | | | | |
| | 高 | 3301 | | | | | |
| | 特 | 3401 | | | | | |
| | 養 | 3501 | | | | | |
| | 栄 | 3601 | H31実施せず | | | 栄養教諭専門研修会Ⅰ | |
| 必修1-2 | 小 | 3102 | 小・中学校所属 | 未定 (4月下旬に決定) | 各教育事務所等 | 地域の教育事情研修会 教育事務所等が主催する研修会に参加する | 高・特の他校種への授業参観の申し込みには、教育事務所が発行している「公開できる授業等一覧」等を利用して下さい。 授業参観後の研究会まで参加して下さい。 |
| | 中 | 3202 | | | | | |
| | 高 | 3302 | 高・特支所属 | 随時 | 各学校 | 他校種の授業参観及び研究会参加 受講者が管理職と相談して交渉・依頼する | |
| | 特 | 3402 | | | | | |
| | 養 | 3502 | 別途 | 12月3日(火)PM H31実施せず | 総合教育センター | 養護教諭専門研修会Ⅱ(保健教育) 栄養教諭専門研修会Ⅱ | |
| 栄 | 3602 | | | | | | |
| 必修2-1 | 小 | 3103 | 3911,3912 から選択 | 3911 6月6日(木) 3912 6月13日(木) | 山梨県立大学 | 学級経営に必要なコミュニケーションについて学ぶ研修会 各講座はそれぞれ50人程度で実施する | 軽い運動が伴います。妊娠、けが等で運動制限のある方は、当日申し出て下さい。 運動靴、タオル、筆記用具等をお持ちください。 |
| | 中 | 3203 | | | | | |
| | 高 | 3303 | 3913 | 3913 6月25日(火) | 県立青少年センター | | |
| | 特 | 3403 | | | | | |
| | 養 | 3503 | 自分の所属する校種に参加する | 生徒理解に必要なコミュニケーションについて学ぶ研修会 | | | |
| 栄 | 3603 | H31実施せず | | | | | |
| 必修2-2 | 小 | 3104 | 3915,3916 から選択 | 3915 7月24日(水)AM 3916 8月22日(木)AM H31実施せず | 3915 都留文科大学 3916 総合教育センター | 道徳性とその涵養について学ぶ研修会 道徳性とは、その涵養方法について、また、学習指導要領の目指すところ等について学ぶ | 都合の良い日程の研修会を選択して下さい。 |
| | 中 | 3204 | | | | | |
| | 高 | 3304 | | | | | |
| | 特 | 3404 | | | | | |
| | 養 | 3504 | | | | | |
| | 栄 | 3604 | H31実施せず | | | | |
| 必修3-1 | 小 | 3105 | 3917,3918 から選択 | 3917 7月24日(水)PM 3918 8月22日(木)PM H31実施せず | 3917 都留文科大学 3918 総合教育センター | 教育現場におけるユニバーサルデザインの利用について学ぶ研修会 特別な配慮が必要な児童生徒の特長と、授業のユニバーサルデザイン化について学ぶ | 都合の良い日程の研修会を選択して下さい。 |
| | 中 | 3205 | | | | | |
| | 高 | 3305 | | | | | |
| | 特 | 3405 | | | | | |
| | 養 | 3505 | | | | | |
| | 栄 | 3605 | H31実施せず | | | | |
| 必修4-1 | 小 | 3106 | 共通 | 1月14日(火) PM H31実施せず | 総合教育センター | 中堅教諭としての連携・協働について学ぶ研修会 ①国および県の教育施策について ー県の教育の目指すところー ②中堅教諭としての在り方について | 閉講式は行いません。 |
| | 中 | 3206 | | | | | |
| | 高 | 3306 | | | | | |
| | 特 | 3406 | | | | | |
| | 養 | 3506 | | | | | |
| | 栄 | 3606 | H31実施せず | | | | |
| 必修4-2 | 小 | 3107 | 共通 | 5月16日(木) PM H31実施せず | 総合教育センター | 学校運営一研修(学び続けることの意義)研修会 ①学び続けることの意義について ー教員としてのあるべき姿ー ②大学院研修、企業研修還流報告 | 閉講式は行いません。 |
| | 中 | 3207 | | | | | |
| | 高 | 3307 | | | | | |
| | 特 | 3407 | | | | | |
| | 養 | 3507 | | | | | |
| | 栄 | 3607 | H31実施せず | | | | |
| 必修4-3 | 小 | 3108 | 共通 | 10月31日(木) PM H31実施せず | 総合教育センター | 危機管理研修会 ①災害に対する対策事例を聞き、自身の教育活動に生かす ②避難所運営ゲーム(HUG)の演習を行い、校内の危機管理体制について考える | |
| | 中 | 3208 | | | | | |
| | 高 | 3308 | | | | | |
| | 特 | 3408 | | | | | |
| | 養 | 3508 | | | | | |
| | 栄 | 3608 | H31実施せず | | | | |
| 必修5-1 | 小 | 3109 | 共通 | 10月31日(木) AM H31実施せず | 総合教育センター | 新たな教育課題(グローバル化への対応)研修会 (701を受講する) 養護教諭専門研修会Ⅲ(保健管理) 栄養教諭専門研修会Ⅲ | |
| | 中 | 3209 | | | | | |
| | 高 | 3309 | | | | | |
| | 特 | 3409 | | | | | |
| | 養 | 3509 | | | | | |
| | 栄 | 3609 | H31実施せず | | | | |
| 必修6-1 | 小 | 3110 | 共通 | 8月9日(金) 終日 H31実施せず | 総合教育センター | 学校運営(カリキュラム・マネジメント)研修会 (601を受講する) 保健組織活動(カリキュラム・マネジメント)研修会 (601を受講する) | ※必修6-1,7-1,8-1は教員免許状更新講習を受講していれば、代替申請が可能です。 希望者は、研修会を申し込んだ後、6月に免許状更新講習代替申請書(様式8)を提出して下さい。 代替申請が認められると受講免除になります。 |
| | 中 | 3210 | | | | | |
| | 高 | 3310 | | | | | |
| | 特 | 3410 | | | | | |
| | 養 | 3510 | | | | | |
| | 栄 | 3610 | H31実施せず | | | | |
| 必修7-1 | 小 | 3111 | 共通 | 随時 H31実施せず | 総合教育センター | 生徒指導・キャリア教育研修会 (総合教育センターの指定された研修から1.0日を受講する) | |
| | 中 | 3211 | | | | | |
| | 高 | 3311 | | | | | |
| | 特 | 3411 | | | | | |
| | 養 | 3511 | | | | | |
| | 栄 | 3611 | H31実施せず | | | | |
| 必修8-1 | 小 | 3112 | 共通 | 随時 H31実施せず | 総合教育センター | 学習指導研修会 (総合教育センターの指定された研修から1.0日を受講する) 養護教諭専門指導研修会(指定された研修から1.0日を受講する) | |
| | 中 | 3212 | | | | | |
| | 高 | 3312 | | | | | |
| | 特 | 3412 | | | | | |
| | 養 | 3512 | | | | | |
| | 栄 | 3612 | H31実施せず | | | | |